I. 2018年度の専門演習を選択するにあたって

～ゼミを選択するみなさんへのメッセージ～

2018年度以降、産業社会学部に新しく入学してくる人たちには、卒業研究が必須になります。ということは、2018年度の専門演習を選択するみなさん（および、そのひとつ下の学年の人たち）にとっては、まだ卒業研究は必須ではありません。しかしながら、私は大学教員の1人として、みなさんにぜひ専門演習での学びを充実させ、卒業研究にまでつなげてほしいと切に願っています。

その理由は、みなさんに研究の世界に足を踏み入れてほしいと思うからです。では、研究とは何でしょうか。一言で言えば、答えが未知である問いを解決するために行われる活動です。それに対して、いわゆる勉強は、すでに多くの人に知られることになっていることを学ぶことです。専門演習や卒業研究の運営の仕方は、担当する先生によって様々ですが、大まかに言えば、専門演習は研究への入り口であり、そのための勉強を位置づけて行う機会になるでしょうし、卒業研究は、専門の勉強を通して自ら問いを立て、その答えを見出すための活動である研究を行う場となるといってよいでしょう。

ではなぜ、みなさんに研究の世界に足を踏み入れてほしいと思うのか。それは、研究することで、みなさんの学びの質が変わるからです。あえて言えば、研究することは、みなさんにとって新たな成長をもたらすからです。答えが未知の問いに対する答えを見出すために、みなさんは主体的に専門的知識を再構成することになります。自分の頭で考える機会になります。また、それまでも専門的知識は勉強してきたかもしれませんが、問いへの答えを見出すためにこそ学ぶ姿勢をもつことで、専門性はより深みを増すことになります。

今日の世界は、様々な疑問に対してインターネットを検索することで、それなりの答えにたどり着けるような仕掛けが出来上がっています。知識を広げるうえでは、かつてないほど便利な環境です。しかしその反面で、安易な解決で満足してしまう傾向が助長されているようにも思われます。研究の世界は、まず問いを立てることに手間暇がかかりますし、また、問いから答えまでにも、時間と労力を要するのです。そうしたプロセスを主体的にたどる機会こそ、研究だといえるでしょう。

さらに言えば、研究は自分の世界を立ち上げることでもあります。あるまとまった考えを、根拠に基づいてまとめることは、まさにみなさん一人一人が、自分なりの知の世界を構築することになるのです。卒業研究は、まさにそのようなものだと思います。そして、そこへの入り口が、専門演習なのです。みなさんが専門演習に加わり、ゼミの仲間とともに、新たな問いに果敢に挑戦されることを通じて新たな成長を遂げられることを、心より期待しています。

2017年9月

産業社会学部長 竹内 謙彰

1. ゼミとは何か

2回生の皆さん、産業社会学部での学びの中心となるゼミナール（以下「ゼミ」）を選択する時が、やって来ました。学部のゼミという場合、3回生対象の「専門演習」と4回生対象の「卒業研究」の両方を指しますが、今回みなさんが選択するのは「専門演習」です。ゼミでは、比較的少人数を対象として、文献講読や討論、あるいは様々な課題の遂行などがなされます。学問の方法論や知見を身につける重要な機会です。特定の教員が主催するゼミに所属することで、専門を深く学び、卒業研究につなげていくことが期待されます。ゼミでの活動は、指導教員ごとに異なります。学問のスタイルを、特定の先生の直接的な指導を通じて学ぶ機会です。しかしまた、ゼミの活動は集まった学生集団にも左右されます。その意味では、ゼミはみなさんが作り上げていくものでもあります。

2. ゼミをどう選ぶか

産業社会学部での専門的な学びの中心となる「専門演習」の選択は、大学生活の後半2年間をどう設計するかということと不可分です。これまでの自分の学びの到達を踏まえながら、学生生活後半の2年間でどのようなテーマを追究するのかについて、しっかりと熟考してみてください。思いつきや思い込み、あるいは一時的な興味関心をもとに「専門演習」を選択するのは、決して望ましいことではありません。「専門演習」は、大学生活後半の学びの軸となるものなので、その点を踏まえてゼミ選択に臨んでください。

ゼミは持ち上がりで2年継続した履修であることから、みなさんが研究したい関心領域と教員が扱うテーマのマッチングが極めて重要です。そのため、今回の選考でも、早期から学生が自身の研究テーマを模索できるようにスケジュールを早め、また根拠のないイメージや先輩・友人といった第三者からの伝聞情報（うわさ）だけでゼミを決めるといった安易な選択にならないよう、ガイダンス等、教員が行うゼミ紹介企画への参加を義務付けています。ゼミを履修するためには、まずゼミ紹介企画に出席しなくてはなりません。確認のために企画出席表を担当教員に提出することを忘れないでください。

ゼミ紹介企画のなかでもクラス別ガイダンスは、ゼミ担当の教員が、ゼミで行う活動について話をしてくれるとても大事な機会です。また、オープンゼミナールに参加してゼミの雰囲気を知ることも良いでしょう。さらに、面談アワー（個別面談）などを利用して、教員と直接話をする機会を持つことも大切です。特に、ゼミの選択に迷ったときには、教員に直接相談に行くことをお勧めします。

ゼミ紹介企画以外でも、担当教員の研究テーマや関心事を調べ、自分の興味関心と合致するかどうかの検討を行うこともできます。大学のホームページには、教員紹介の欄がありますし、インターネットで教員の名前を入れて検索すれば、教員の関わる研究や社会的活動なども調べることができます。新たな一歩を踏み出すため、情報収集の努力を惜しまないでください。

3. 産社の学びとゼミの位置づけ

「専門演習」は、産業社会学部における学修スタイル—**“深めつつ広げる”**—の機軸となる科目です。産業社会学部の人材育成の目的は、「産業社会学部は、社会諸科学に関する教育研究を通じて、新たな学問の地平を切り開き、学際性と専門性を兼ね備え、積極的に社会に働きかけて社会問題を解決していくことができる人間を育成することを目的とする」です。現代社会は、ますます複雑化・高度化・国際化の度を高めつつあります。そうした社会で思う存分活躍するために、関連諸分野への目配りの利く新しい専門性を獲得し、多面的に社会的現実アプローチすることのできる資質—**「社会形成力」**—を獲得して欲しいと思います。このための学修のスタイルが、**“深めつつ広げる”**です。特定の分野や主題だけを単に深めるだけでは視野の狭さに陥るおそれがあり、焦点を欠いたまま広げるだけでは浅薄な博識に落ち込んでしまうかもしれません。自らの学びを自主的に組織し、**<学際的専門性>**を獲得していきましょう。

「専門演習」は、産業社会学部の学びの中で、おもに**“深める”**という側面を担うものとしてとても重要な位置を占めています。産業社会学部の多様な教学プログラムを活かし、皆さんの学びを体系化していくために、

「専門演習」でしっかりと専門的な学びを深めることが肝要です。「専門演習」を中軸として関連諸分野についても学び、その関連諸分野での学びが「専門演習」での学びをさらに深めるというように、好循環を生み出してください。そのためには、「専門演習」での学びをしっかりと深めて学びの核を作ることがもっとも重要です。

ゼミは専門的な学びの中心に位置づくものです。ゼミでの学びは卒業研究にもそのままつながっていきます。土台を深め広げることで、みなさんが卒業研究という高い峰に挑戦していただけることを期待します。